

元気フェスタ Part V

チーム名: チーム家族

I. はじめに

本活動は、看護学科 2 年生必修科目である「家族援助論」において、地域における家族支援の実際を盛り込み、地域活動への学生参画を通して、地域住民のヘルスリテラシーの向上を支援することを目的に実施した。学生は、非常勤を含めた看護学、教育学、心理学の教員が個別の家族支援から地域の家族支援の具体的事例を学習した後、健康教育を主とした家族支援の実際を地域に出向き実施した。

II. 目的

本活動の目的は、以下の点が挙げられる。

1. 学生のヘルスリテラシー向上につながる

青森県としての地域特性、家族支援の具体的方法、健康教育の方法を学んだ上で、地域のなかで健康の保持増進に関する家族支援の実際を企画・準備・実践してみることで、学生自身のヘルスリテラシーと地域活動意識の向上を目指す。

2. 住民(青森県)のヘルスリテラシー向上につながる

多様な形態がある家族に対する、学生による様々な教材を用いた健康教育等により、住民のヘルスリテラシー向上につながる可能性がある。

III. 活動方法(または「活動の経過」等)

「家族援助論」の授業のねらいは、家族に関する基本的な知識のほか、家族看護、家族支援の具体的方法について理解し、地域における家族支援の実際を通して、学生が積極的に地域のさまざまな活動に主体的に関わることができるよう、学生のヘルスリテラシー向上を目指すことである。

本活動は、5月から住民が多く集まる場所が確保できるように検討を行い、サンロード青森サンホールを確保した。また、実施時期は、住民が参加しやすい時期や学生の後期試験期間を考慮し、今年度は実施日を2月に設定した。そして、周知のためのチラシ(写真①)を作成し、10月の学祭をはじめ、青森市の健康関連イベントなどで配布し、また関係機関への投げ込みも行った。

11月から「家族援助論」が開始し、学生は家族に関する基本的な知識、地域社会活動につながる知識・技術のほか、家族看護、家族支援の具体的方法についての講義を受講した。また、ヘルスリテラシーに関する、地域における家族支援プログラムの企画立案を行い、健康教育の指導案や教材の作成を行った。このプログラム実施に際し、構成員となっている弘前大学、弘前学院大学の教員にも参加してもらい、教育学的な視点、社会参加的な視点も盛り込んだ。家族支援という視点と地域活動が結びつきにくい点に考慮し、プログラムの企画前の授業内容において、その点について強化し、「地域における家族支援」について理解できるように、担当者と打ち合わせを行い実施した。

1月14日には、学生の統括グループが中心となって学生8名で会場の下見し、会場の

担当者と打ち合わせを行い、当日を迎えた。



【写真①：チラシ】

IV. 活動結果(または「成果」等)

2月1日(土)にサンロード青森で「元気フェスタ PartV」を実施した。保健大学看護学生 110名、弘前大学から4名、弘前学院大学から8名の学生が参加し、14の企画を実施した。14の企画ブースは、①血圧測定、②骨密度測定、③体組成測定【写真②】、④ストレスチェック、⑤視力測定【写真③】、⑥体力測定、⑦認知症予防【写真④】、⑧育児体験、⑨歯科口腔、⑩ハンドマッサージ、⑪肩温電法、⑫ストレッチ体操【写真⑤】、⑬子どもの遊び場(弘前大学の企画)、⑭げんきっさ(弘前学院大学の企画)である。



【写真②：体組成測定】



【写真③：視力測定】



【写真④：認知症予防】



【写真⑤：ストレッチ体操】

来場者数は、延べ 911 名、ブースの中で最も多かったのは、ストレスチェックで 103 名、ついで骨密度測定 83 名、ハンドマッサージ 79 名、認知症予防 77 名、体組成測定 73 名であった。少ないブースで歯科口腔 30 名、ストレッチ体操 42 名、視力測定 53 名であった。昨年よりも延べの来場者数は若干少ないが、各ブースの来場者数は 30 名以上となっており盛況であった。

来場者への終了時のアンケート結果から、来場者の年齢層は 40 代、50 代が多く、男性よりも女性が多かった。来場したきっかけは、ほとんどの方が偶然来た方で、前にも参加した方が数名いた。ほとんどの方が自分の健康に興味を持つことができ、これからの生活に活かそうと思うことができたという結果であった。

V. 活動目標に対する評価

目標「1.学生のヘルスリテラシー向上につながる」に対しては、実施後に学生が記載する振り返りの様式、レポートに以下の内容(学生レポートの一部抜粋)が記載されており、多くの学生が、講義と実際の来場者との関わりの中から看護職として対象本人だけではなく、その家族や地域にも目を向ける大切さを学ぶことができていた。そのことから、健康の保持増進に関する家族支援の実際を通して、学生自身のヘルスリテラシーと地域活動意識の向上がされたと思われ、目標は達成できたと考える。

【学生レポートの一部抜粋】

- ・対象者の健康課題を解決していくためには対象者だけを見るだけでは不十分であり、身近な存在である家族や地域から受ける影響は大きく、それらに対して純分に働きかけを実施していくことが必要である。
- ・健康問題の全体像、その家族の構成、関係性、家族の発達課題、価値観、家族の対応状況・適応状況などその他様々な項目をアセスメントすることが必要である。
- ・すべてに人が健康に興味・関心を持ち自分の問題として健康を捉え、改善の知識・行動を知ることができる機会を設けることも看護職に必要な支援だと考える。

また、目標「2.住民(青森県)のヘルスリテラシー向上につながる」に対しては、上述した「IV活動結果」の来場者数や来場者アンケートからも、来場者のヘルスリテラシー向上につながったと考えられる。しかし、目標にあげている住民までは達成したとは言えず、このような企画を継続して実施することで達成に至るのではないかと考える。

VI. 活動の総括

今年度実施した「元気フェスタ Part V」は、延べの来場者数は若干昨年度よりも少なかったが、各ブース来場者が昨年よりも多く、大変好評であったことが伺える。また、来場者は、この機会を通して自分の現状を把握し、自分には健康に関してどのような行動が必要なのかを実感する貴重な機会となっていたと考えられる。そして、学生は来場者への関わりを通して、実際に上述の体験をすることができ、実施したことへの達成感や学びも多くあった。以上のことから、本活動の目的は達成できたと考えられる。

VII. 謝辞

ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

VII 活動構成員等

(チーム名: チーム家族)

	氏名	所属	役割分担
活動代表者	古川 照美	看護学科・教授	活動全体にかかる調整・運営・統括
経費執行責任者	倉内 静香	看護学科・講師	活動経費管理、地域における家族支援プログラム実践の支援
構成員	増田 貴人	弘前大学教育学部・准教授	家族支援プログラムに関するアドバイス、実践の支援
構成員	生島 美和	弘前学院大学文学部・准教授	地域社会参加に関するアドバイス・調整、実践の支援
構成員	谷川 涼子	看護学科・准教授	プログラム運営管理、地域における家族支援プログラム実践の支援
構成員	青森県立保健大学 学生	看護学科 2 年生・ 110 名	地域における家族支援プログラムの企画・準備・実践

※欄が不足する場合には、適宜行を挿入ください。

VIII 活動経費(執行額)

(単位:円)

	活動経費 (総額)	科目					
		報償費	旅費	需用費	役務費	使用料/ 賃借料	その他
採択金額	300,000	0	0	58,000	2,000	240,000	0
執行金額	298,272	0	150	61,622	0	236,500	0

※活動経費執行内訳等の詳細は別紙「収支管理簿」のとおり。